

水着ぬぐシャワーの出たり出なんだり
鉍毒のいまもはげしき帰省かな
帰省子の顔突き出して汽車とまり
ひとねむりしてからのこと避暑便り
避暑の風呂まはりうろろしつゝ焚く
文字を縫ひひゞの走りし墓洗ふ
海坂を流灯の灯ののぼりつめ
子供らの駆けて踊のはじまらず
訪ねしはよくよくのこと野分中
うたゝ寝に頁とびたる夜学かな
バスのゆれどほし秋草さゝげ持ち
まつすぐのにのぼる露の蛾貴船道
干鰯ひつつく車雨ざらし
秋晴や汐の変り目波をどり

のけものにしてある菊や菊花展
飛ぶ松葉二転三転松手入
波の上に投げし煙草火十三夜
紅葉冷え襖を閉めるわけにいかず
水漬きたる枝いち早く紅葉しぬ
鶴の宿二男三男その後生れ
犬の糞凍てたる鶴の墓並ぶ
網を越す鴨の羽音のそれにけり
鴨網をのがれし鴨のとびちがひ
顔見えずなりし鴨網たゝみけり

二〇一六年六月二八日